

決算審査特別委員会 4日間の集中審査

# 厳しい財政状況続く

## 一般会計、単年度収支1億7千万円の赤字

※決算の詳細につきましては、広報おごおり10月1日号をご参照ください。

全議員で構成する決算審査特別委員会は、平成29年度の一般会計203億円と特別会計126億円合わせて約329億円の決算審査を行いました。一般会計は、前年度の繰越金と基金取り崩しでかろうじて黒字となつていますが、単年度収支では、1億7470万円の赤字決算で厳しい財政状況であることが明らかになりました。

### 3点について委員間討議

#### ① 施策効果の評価

特に複数年にわたり継続している補助委託事業は、その施策効果を判断する客観的なデータを求めてきましたが、今決算においても十分納得し得る根拠が示されませんでした。今後これらの補助委託事業を継続し、より効果あらしめるためには、一層施策効果の分析評価を的確に行つたうえで次に進んでいくことを求めたいとの意見が出されました。

#### ② 協働のまちづくり方針の明確化

昨年度より「第2ステージ」に取り組むとの方針で新たな展開がなされてきました。しかし、協働のまちづくり会議での議論、ワークショップの結果等が示されていないため、今後の方向性が不明確であり、区長会やまちづくり協議会に不安や混乱が起きています。区長会とまちづくり協議会の役割の整理、協働のまちづくり推進条例（仮称）制定の見通し、「協力の協働から共働きの共働」への変更後の経緯を明確に示すべきだとの意見が出されました。この件については、様々な観点から時間をかけて議論する必要があるとの意見で一致し、改めて関係者の出席を求め議論することになりました。

#### ③ 適正な財政と行政運営

財政の硬直化が著しい現状にかんがみ、歳入歳出の現状分析と今後の予測を一層厳密に行い、適切な行財政運営に向けた見直しが必要との意見が出されました。同時に予算審査と議決は議会の責務であり、議会も一層注意して

審査しなければいけないとの意見も出されました。

以上で決算審査を終え全員賛成で認定されました。その上で市長に対して次の2点について意見書を提出しました。

#### 決算審査特別委員会意見書

##### ① 施策効果の評価について

特に複数年にわたり継続している補助、委託事業については、その事業の目的、効果、成果指標等について、客観的なデータに基づき評価を行った上で次年度以降の事業実施について検討していくこと。

##### ② 適正な財政と行政運営について

財政運営については、経常収支比率が98.3%と財政の硬直化が著しい現状にかんがみ、歳入歳出の現状分析と今後の予測を一層厳密に行い、適切な行財政運営に向けた見直しを行うこと。